

大豆NEWS!

vol 6

女性による「農業起業活動」推進の全国会議開催
～地場加工で国産大豆の美味しさを広めよう！～

12月7～8日、農林水産省婦人・生活課の主催で「女性農業者による農業関連起業活動を推進するための全国会議」が開催され、日本各地から百名以上の生産者が参加。経営の多角化やグループ活動の起業化に向けて、分科会形式で熱い議論が行われました。

大豆については、作付面積が増加していること、味噌・豆腐など比較的手軽に美味しい加工品が製造可能なことなどから、地場での加工に取組む事例が増加しています。単に自家用に加工するだけではなく、直売所・インターネットでの販売や、学校給食への導入、グリーンツーリズムで訪れるお客さんや地域の子供達への味噌・豆腐作り指導など、取組みに拡がりがあり、ますますの発展が期待されるようです。

参加者から提起された問題の一つに「地場の大豆が思うように手に入らない」というものがありました。お話を伺ったところ「農協が一元集荷をするようになり、全て交付金対象大豆になってしまったため、加工グループに売ってもらえなくなった」とのこと。

もちろん、農協が集荷したものを全量交付金対象にしなければならないということはありませんし、特に、この加工グループの購入価格は交付金の基準価格を大きく上回る水準であったことから、何らかの誤解が行き違いがあったかと思われます。

加工グループが地場産大豆を購入する主な方法は

農家や農協から購入（交付金対象大豆として出荷した場合の生産者手取額と同等又はそれ以上の価格での取引を求められることが多いでしょう）

産地の大豆を取扱う問屋から購入

の2つです。いずれの場合も、農協や普及組織、市町村が仲介役となることにより、原料調達が非常にスムーズになりますので、加工グループから相談を受けた場合には、積極的に協力していただくようお願い致します。

また、平成12年産から、交付金対象大豆の取引が見直され、相対契約による販売が拡充されることにより、産地を指定した大豆の手当てがより確実に行えるようになります。こうした制度も十分ご活用いただき、「おらが地元大豆」の美味しい地場加工を一層すすめていただければ幸いです。

発行：不定期

発行元：農林水産省畑作振興課 豆類班 tel 03-3502-8111

内線 E-mail

豆類班長 鈴木良典 4333 yoshinori_suzuki@nm.maff.go.jp

農産園芸専門官 河合亮子 4318 ryoko_kawai@nm.maff.go.jp

大豆企画係長 後藤 寿 4319 hisashi_gotou@nm.maff.go.jp

大豆指導係 一関英樹 " hideki_ichinoseki@nm.maff.go.jp

- ・記事や大豆生産振興に関する御質問・御感想など、ご自由にお寄せください。
- ・記事を転載される場合は、御一報ください。